

ようじえんだより 2018年度6月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目 253 番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

6月主題『感じる』

主題聖句：空の鳥をよく見なさい。…あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。

マタイによる福音書6章26節

☆ 0～2歳児：保育者と一緒にさんびかを歌う。空、お日さま、雲、雨などの自然を感じ、目を向ける。

☆ 3～5歳児：神さまがつくられた自然の中で過ごすことを喜ぶ。砂・泥・水で遊び、心地よさを感じる。自分でやろうとすることが増え、楽しさを感じると共に、うまくいかなくても大丈夫と感じる。

パンドラの箱、知っていますか？

ギリシャの神話に「パンドラの箱」と呼ばれるお話があります。触れてはならない事柄に触れてしまった時、「パンドラの箱」を開けたという言い方がされますが、パンドラの箱というお話は全能の神であるゼウスが神々に呼びかけて様々な贈り物をパンドラという女性に与えます。しかしその贈り物の中には決して開けてはならない箱がありました。しかしパンドラはある神に誘惑され、掟を破ってとうとう箱を開けてしまいます。すると箱からは『全ての悪』が飛び出していきました。病気、悪意、妬み、憎しみ、偽善、保身、悲しみ、飢え、暴力、狂気…。パンドラは急いでふたを閉めます。しかしその中にこの世に飛び出さなかった災いが一つだけありました。それは「予知」でした。未来がわかる予知能力。これを人間が手に入れなくて本当に良かったと言うのです。なぜでしょうか。明日地震が来ることがわかっていいかもしれない。でもパンドラの箱のお話の中では違うのです。予知能力があると人間は絶望すると言うのです。自分や家族や親友がいつ死ぬかを知ってしまったら、人

間は心の底から笑い、希望をもって生きていくことができなくなるというのです。

明日のことまで思い悩むな

今月の聖句は「思い悩むな」というイエス様のお話の中の一節です。「空の鳥や野の花は明日のことも考えず、その時その時を懸命に生きている。鳥や花よりも優れているあなたがたはなぜ先のことを考えて悩むのか」とイエス様は言われます。もちろん中長期的計画が有効なことは多々ありますし、先見性をもつことが人間の特性でもあります。でも先のことを考えて不安に陥り、今を喜んで生きる事が出来なくなるのならば、本末転倒のような気もします。このお話の最後のイエス様の言葉が印象的です。「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である」。

先行き不透明な世の中だからこそ私たちは不安にとらわれ、子どもたちにも転ばぬ先の杖を用意したくなりますが、子どもも親も今を喜んで自然体で生きる中で、大切なことに気づいていけるような気がします。 園長：久保田愛策

年間主題『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

主題聖句：愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

新約聖書 ヨハネの手紙I 4章11節